

# 小中学校のネットいじめの構造

他人に厳しくなるネットの世界  
相手を尊重する心が欠如

いじめ  
(加害者)  
心のSOS

加害者Aタイプ  
❖ クラスのリーダー的存在

- 現実でもネットでも「空気」を作る
- いじめの「合意」を得やすい
- 自分の意に反する人は許せない



自己顕示欲が強い

加害者Bタイプ  
❖ クラスで目立たない

- 大人しい
- 自己主張しない
- 抑圧されている



自己肯定感が低い

不安

孤独感

抑圧された心

認められたい

つながりたい

寂しさ

誹謗  
中傷



無視



デマ  
情報



疎外

同調圧力

- いじめをLINEグループトークの「いじめ」を止める発言は「空気」乱す行為「KY」は制裁を受けるかもしれないという恐怖感
- 「いじめ」を受けないために加害者として「いじめ」に参加

LINEグループを悪用

- デマを流して相手を陥れる
- 集団で相手を攻撃するためのきっかけを仕掛ける
- 現実のいじめに発展
- グループ外し（裏グループ）

傍観者

- 「誰かが」止めるだろう 助けるだろう
- どう行動すればよいのかわからない 関わりたくない
- 「いじめ」対象の被害者にも非があるので「いじめ」を受けて当然という「いじめ」の正当化

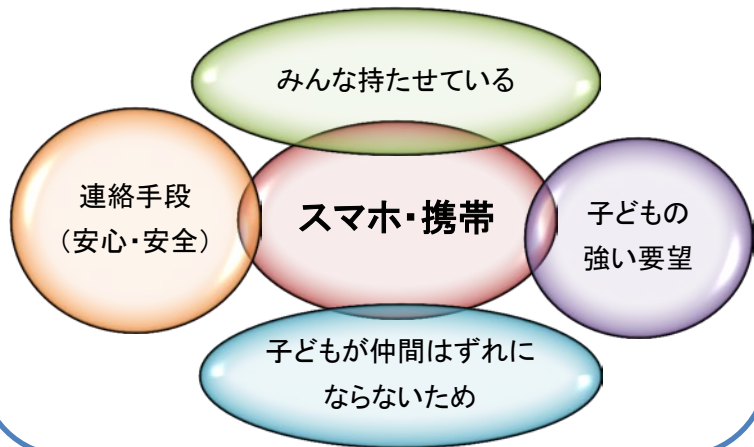
顔が見えない・自己中心的

SOSは「クラスの雰囲気がおかしい」という表現  
自分を守るために他人を攻撃する人間の「心」の弱さを認め  
被害者の「心」の叫びを共有できる教育の徹底

「誹謗中傷」コメントを見つけたら、気軽に相談する体制  
づくりと、報告相談は義務であるという意識の啓発活動

# 保護者の責任の重さ ～ルール作成・教育をしないでスマホ・携帯を買い（貸し）与えると～

## 買い（貸し）与えた理由



- 購入後、ルールの作成、ルールの徹底をしていないと
- 購入前（後）に、親子でスマホ・携帯・SNSの実態や犯罪などの危険性の認識、心身へのリスクを学び、スマホ・携帯の購入の必要性を再確認したうえでルールを一緒に作成

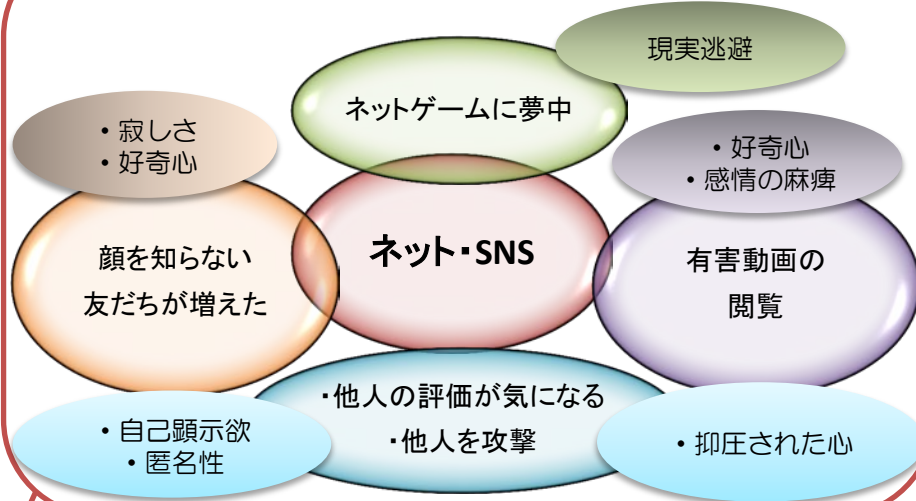
## 買い（貸し）与える前に

- スマホ・携帯のトラブル対策を親子で事前に学ぶ
- 保護者のスマホ・携帯で練習期間を設ける
- 親子で一緒にルール作成（破った時のペナルティー）
- フィルタリング設定（ブラウザ型）

## 子どもを守るために

- 一緒にSNSを学ぶ姿勢をもつ（失敗しながら学ぶ・学ばせる）
- ルール違反には毅然とした態度を示す
- 夜間は親の目の届くところで充電
- 親子でネットに関する話題を話す機会を今以上に多くする
- 週に1日はネットの休日を設ける
- トラブル発生時の相談場所、相談者を親子で確認
- LINEは親子で一緒に始めましょう

## スマホ・携帯の利用時間、頻度の増加



## トラブル・犯罪・心身への影響

